

2012 年度 小委員会活動成果報告

(2013 年 1 月 31 日作成)

小委員会名	環境振動制御技術小委員会		主 査 名：鈴木 健司 就任年月：2009 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (環境振動運営委員会)		委員長名：佐土原 聡 主 査 名：横山 裕
設 置 期 間	2009 年 4 月 ～ 2013 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・各種制振技術の概要や適用事例に関する情報を収集し、その成果を広く会員に展開し、居住性の向上に寄与する。 ・予測解析の精度について、解析モデルやプログラムによる違いを検証するとともに、そのばらつきの要因について議論する。 		
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：無		
	主査：鈴木 健司 (清水建設) 幹事：林 健太郎 (ベネック振動音響研究所)、洞 宏一 (特許機器) 委員：石橋 敏久 (鹿島建設)、井上 雄介 (2010.3 まで; リオン)、片迫 幹男 (2009.6 から; 日本設計)、嘉村 武浩 (日建設計)、小林 真人 (2011.3 まで; 飛鳥建設)、高津 熟、田中 靖彦 (間組)、本間 剛 (2012.3 まで; 森ビル)、増田 圭司 (フジタ)、森下 真行 (前田建設工業)、山中 祐一 (2011.5 から; J R 東日本)、吉岡 宏和 (竹中工務店)		
設置 WG (WG 名：目的)			
2012 年度予算	20,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： http://news-sv.aij.or.jp/kankyo/s17/subcommittee3_control/AIJ_EVSC3index2012.html	

項 目	自己評価
委員会開催数	5 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) * 能力開発支援事業委員会承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 文献収集： スパンと固有振動数の関係をまとめた 2. 解析検討： モデル化手法による結果の差異を調べた 3. 実務的解析手法： 実測結果に合わせたモデル化手法の例を抽出
委員会活動の問題点 ・課題	1. 業務繁忙により進捗に遅れが出た 2. 例として出せる環境振動の実測事例があまりない 3. 各種文献に解析条件や測定条件を詳述しているものが少ない

- * 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。
- * 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学本委員会用 自己評価欄

2012 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価・最終年度評価)

総合評価 (4段階評価)	A	B	C	D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>解析手法について統一的なモデル化手法案の提示を試みたが、解析実施機関により解析手法や使用ツールが異なることもあり、統一的な手法提示は難しいと判断し、解析条件をそろえた場合の解析ツール（解析手法）ごとの解のバラツキを調べることと、床の振動特性が既知の場合にその床をどのようにモデル化すると解が合うかというモデル化手法におけるノウハウの抽出活動に切り替えた。</p> <p>特に東日本大震災以降、主査を含む各委員の業務が多忙となり、解析や文献調査の進捗が遅れ、また会議日程の調整も取りづらくなり、活動が一時停滞した。</p> <p>ブラインド解析実施の結果、解析手法により床スラブの振動予測結果にバラツキが出るのがわかったが、いくつかのパラメータスタディによりバラツキ要因を調べることができた。</p> <p>既存の建造物の振動検討を想定した振動測定既知の場合のモデル化手法抽出においては、事例数が少ないのでノウハウを網羅することはできなかったが、いくつかの例を提示することができた。</p>			

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。